

平成30年度 三重大学附属図書館研究開発室事業報告

1. 附属図書館及び環境・情報科学館の学習支援環境の整備・支援（和気・森本・加藤）

人的学習支援と、学習空間改善の二方向から、ラーニングコモンズにおける学習支援環境の拡充に向けアプローチすることを目指した。

人的学習支援については、環境・情報科学館2階に「MEIPLサポートデスク」を新設した。MEIPLサポートデスクは、「ICTサポートデスク」と「ラーニングサポートデスク」から構成されており、2018年度に受け付けた延べ相談件数は、318件（内ICT：273件、ラーニング：45件）であった。

また、附属図書館への「出張サポートデスク」（7/27・8/1・1/31・2/1）や、「秋の文献検索講習会：クラウドを活用した文献の収集・管理」（10/23 午前・午後）等の企画を実施した。

加えて、正課授業との連携に積極的に取り組んだ。連携を行った授業は以下の通りである。（「情報科学基礎」、「家庭情報処理」、「三重の産業」、「三重の地場産業」、「上級総合日本語1A」、「上級総合日本語1B」）

学習空間整備については、MEIPLサポートデスクに2019年度から新たに「メイカースペース」機能が加わることとなったため、ラーニングサポートデスクで活動する工学研究科建築学専攻の大学院生とともに、これまでの利用者の動線を勘案しながら現状のレイアウトを見直し、配置変更を行った。

2. 学術情報リテラシー支援（長澤）

本事業の目的は、アクティブラーニング型授業を含む多様な形式の授業のための情報リテラシー教育のデザイン、教育方法、評価方法のあり方、それにとまなう教員と図書館員の連携のあり方について文献調査や先進事例を調査し、その仕組みを分析することにある。2018年度には、附属図書館で実施中の情報リテラシー教育について教員からフィードバックを得るための指標や方法について情報リテラシー担当の図書館員と検討した。また、国外の大学教育における教員と図書館員の連携構築に関する研究成果を情報リテラシー関係の国際学会で発表するとともに（2018年9月）、国外の図書館情報学専攻の研究者との研究打ち合わせを重ねた。

国内では、2017年度までに山口大学で実施していたフォトボイス調査の研究成果を高等教育関係の学会で発表するとともに（2018年6月）、同様のフォトボイス調査を創価大学（教育学部）を対象として実施し、授業外学習における学生の情報利用行動について6名の学生のデータを収集した（調査期間：2018年12月～2019年1月）。以上に加えて、高い学習成果に結びつく情報リテラシー教育のあり方を検討するために、国外の大学を中心として、教員と図書館員が連携した情報リテラシー教育に関する研究を進めた。

3. 附属図書館所蔵資料に関する調査研究（吉丸・中川）

三重大学附属図書館所蔵の和古書の調査と整理を行った。未整理和古書のOPACへの登録のため、和古書の実物をみてデータベースを作成を実施した。学術アドバイザーの中京大学中川豊准教授とともに2018年9月20日21日、2019年2月27日28日、2019年2月22日23日、3月14日15日、3月19日20日に調査を行った。100点ほどのカードデータを作成したほか、貴重書棚に収蔵されてい

た巻物類を調査し、簡易目録を作成した。資料調査の成果として所蔵資料展示「津阪東陽の文事」展を2018年6月14日から8月10日まで開催した。

4. 附属図書館の職員のためのスタッフ・ディベロップメント（長澤・和気）

附属図書館の職員（時間外の学生アルバイトを含む）を対象として、広報活動のあり方について検討する附属図書館の研修を開催した。広報活動の意義や方法についての基本的な知識に加えて、2017年度の情報リテラシー・サポートWGの成果を含む三重大学附属図書館の現状についての情報をもとに、よりよい広報のあり方について検討し、検討した結果を全員で共有した（9月12日）。また、2015年度より実施している新任の職員（時間外アルバイトの学生を含む）を対象とする「大学図書館が提供する学習支援サービス：大学教育改革の仕組みと大学図書館の機能の強化」を実施し、新任の職員が大学教育改革や大学図書館のサービスについて理解を深める機会を設けた（10月18日）。

以上の研修に加えて、2017年度に始動した附属図書館の職員（時間外アルバイトの学生を含む）からなる情報リテラシー・サポートWGの活動内容の振り返りをもとにWGを再編成し、12月より図書館サービスWGとして活動を再開した。具体的な事業内容として、ポスター、利用案内、地域資料、選書を設定し、各事業の活動内容と今後の活動計画について事業ごとにWGのメンバーで検討した。事業ごとに検討した内容や活動の成果については、毎月の打ち合わせをもとに、WGのメンバー全員で共有して評価検討している。WGの活動内容を発信するために、附属図書館研究開発室内のホームページ内にWGのページを新設し、2017年度からの活動内容を報告した。

室員の活動

【地域貢献】

- ・長澤多代 桑名市教育委員会 桑名市立図書館 図書館協議会委員（会長）
- ・長澤多代 桑名市教育委員会 桑名市立図書館 図書等選定審査委員（副委員長）

【論文】

- ・NAGASAWA Tayo. "Collaboration Building between Teaching Faculty and Librarians: Based on a Case Study of Field Librarians at the University of Michigan". [paper] Kurbanoglu, S. et al. eds. Information Literacy in Everyday Life. Springer International Publishing, 2019, p.483-493.
- ・長澤多代「協働して行う学習支援：大学教育における教員との連携構築のための図書館員によるアプローチと要件」〔特集〕『看護と情報』Vol.25, 2018, p.10-16.（査読なし）
- ・森本尚之「三重大学におけるノートパソコン必携制度（BYOD）導入の報告と分析」『情報処理学会情報教育シンポジウム(SSS)2018 論文集』 p. 248-255, 2018.

【報告その他】

- ・長澤多代「図書館員」, 「ラーニング・コモンズ」, 児玉善仁, 赤羽良一, 岡山茂, 川島啓二, 木戸裕, 斉藤泰雄, 館昭, 立川明編『大学事典』平凡社, 2018, p.692, p.838.
- ・長澤多代「アクティブラーニング型授業における教室外学修の実態：山口大学におけるアクションリサーチをもとに」（2017年度課題研究集会シンポジウムI「アクティブラーニングの効果検証」）『大学教育学会誌』Vol.40, No.1, 2018, p.42-46.

【外部資金による研究】

- ・長澤多代（研究分担者）：科学研究費・基盤研究 B「学習成果に結実するアクティブラーニング型授業のプロセスと構造の実証的検討と理論化」〔研究分担者〕（研究代表者：京都大学高等教育研究開発推進センター 溝上慎一）（2016 年度～2018 年度）

【研究発表（口頭発表）】

- ・NAGASAWA Tayo. "Collaboration Building between Teaching Faculty and Librarians: Based on a Case Study on Field Librarians at the University of Michigan", [Paper] The Sixth European Conference of Information Literacy (ECIL), Oulu, Finland, 2018.9.23.
- ・長澤多代, 林透, 日高友江「授業外学修を促進するアクティブラーニング型授業のデザイン：山口大学におけるアクション・リサーチをもとに」大学教育学会・第 40 回大会, 筑波大学, 2018.6.10.
- ・和気尚美・森本尚之・正路真一・石田修二・佐藤明知「授業とラーニングコモンズにおける人的支援サービスの連携：クラウド活用促進およびライティング支援を中心に」大学教育改革フォーラム in 東海 2019（ポスター発表）, 2019-03-09.

【招待講演】

- ・長澤多代「図書館における学修支援の可能性：情報リテラシー教育のための教職協働と教職学協働」私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会, 平成 30 年度研修会, ANA クラウンプラザホテル富山, 2018.9.14.
- ・長澤多代「学修支援・利用教育」私立大学図書館協会西地区部会東海地区協議会, 2018 年度図書館実務担当者研修会, 日本福祉大学 東海キャンパス, 2018.9.6-7.
- ・長澤多代「大学図書館の学習支援」筑波大学附属図書館, 平成 30 年度大学図書館職員長期研修, 筑波大学春日キャンパス, 2018.7.11. [関連情報]

【その他】

- ・長澤多代 国立国会図書館『カレントアウェアネス』編集企画員
- ・長澤多代 一般社団法人大学教育学会 情報システム管理運営委員会委員